

四万十市ふるさと応援団員からの便り

秋水のふるさとを訪ねて



秋澤チズ(写真中)

千葉市

昭和14年生

佐藤栄 写真右

東京都墨田区

昭和19年生

1月24日、101年目になる幸徳秋水の墓前祭に参加をさせていただきました。小雪の舞い上がるなか、正福寺の境内で墓前祭が何十年も前から行なわれてきたことを知り、感無量でした。

式の最後、呼びかけていただき、ちよつと躊躇しましたが、思い切って献花することができてほっとしました。この場面がテレビで放映され、よい思い出になりました。

私も姉妹の祖母(ルイ、朝子)は秋水の最初の妻でした。祖母は秋水に離縁をされ、福島に帰されたあと、祖父と再婚し、父を生みました。

私どもはおばあさんと東京でずっと一緒に暮らしておりましたので、その仕事をよく覚えております。

本をよく読み、作法もキチンとする人で、両手を重ねる時は手のひらを上にして合わせます。手の甲の皺を相手に見せないためです。家の中では常に凜として、そつがありませんでした。また、大きな声は出さない人で、外にもあまり出ませんでした。

おばあさんは昭和48年、当時としては長寿の92歳で亡くなりましたが、私どもはおばあさんから父(昭和33年死

去)からも秋水のことは聞いておりませんでした。昭和57年、新聞報道をされて初めて知り、驚きました。いま考えると、おばあさんはどうして秋水にたった1年で離縁をされたのかと思います。

中村には一度は訪ねたいと前々から思っておりましたが、なかなか踏ん切りがつかず、またチャンスもなく、情報も乏しい状況でした。

この度は、私の同級生の木原恵美子さん(広島県三原市、写真左)が情報をくれ、誘われたのがきっかけです。初めは木原さんと姉のチヅで行くつもりでしたが、妹栄も行きたいというので3人で行くことになりました。

中村駅に着いた時は「やつと来た」と喜びを感じました。南国土佐で雪に合おうとは思いませんでした。でも、あまり寒さは感じず、住みよい町のようにです。

中村では本当に予想もつかない出逢いが多く感動しました。秋水の生家跡を訪ねようにも場所がわからず、数人の方にお伺いしました。すると一人の年配の女性がそこまで案内してくださり、その後自宅でコーヒーを出して接待もしてくださいました。

ちようど夕方私たちも汲々としておりまして、このコーヒーの美味しさには感激でした。なんと素敵なお方なのだろうと思いを残して失礼しました。

四万十の風景が頭に焼きついており、またお伺いしたい気持ちにさらされています。これがご縁でこれからもお付き合いを願ひ申し上げます。

四万十市の皆様、心からのおもてなし、ありがとうございます。

叛逆者の妻となりしも一年余

世をはばかりひっそりと暮らす

秋水の お墓の前の 薄氷

栄